

# 孤独に満てる

(昭和四十四年寮歌)

山崎芳行君 作歌  
服部泰明君 作曲

一

孤独に満てる我が青春に  
何時しか遅春も訪ずれぬ  
まだ萌えやらぬ芝生の上に  
一片舞い散る桜花  
朝露に濡れ新たな寮友と  
盃かわす楽しさよ  
嗚呼我一人にあらずして  
我が青春は寮友とあり

二

孤独に満てる旅人一人  
理想を求めて蝦夷へ来ぬ  
その彼の人の心知れりや  
原始の森に鳴く郭公  
寮友と別れて一月経ちぬ  
今日懐しき便りあり  
嗚呼我一人にあらずして  
我が青春は寮友とあり

三

孤独に満てる我が自治寮に  
早くも秋の気配あり  
夕日に映ゆるポプラの並木  
憂愁風に枯れ葉飛ぶ  
再び会いぬ寮友と連れ立ち  
真理の国を彷徨いぬ  
嗚呼我一人にあらずして  
我が青春は寮友とあり

四

孤独に満てる我が同胞に  
厳冬正に伸し掛り  
深雪に埋むる原始の森へ  
月光冴かに突差しぬ  
冷酒を飲み野心語れば  
いとど深まる友情かな  
嗚呼我一人にあらずして  
我が青春は寮友とあり